

— 建物概要 —

設計監理：(株)学研教育みらい
一級建築士事務所
施工：丸和工業(株)
構造規模：鉄骨造2階建
建築面積：795.59㎡
延床面積：1,330.25㎡

地域とのバリアフリー
【継承】



古くは隣接の神社の境内・参道であった園敷地において地域の持つ記憶を受け継いでいくようなデザインエッセンスを取り入れた。



寺院建築にみられる「裳階」（雨打）を参考に、バス送迎時の雨よけのための軒の低い庇を設けた。



「すずらん」のデザインモチーフを建物にいたる所に散りばめた。



コンセプトテーマ
「コミュニケーションバリアフリー」

園の特徴を再認識し、「認定こども園」としていかにアイデンティティを継承した上で「コミュニケーションバリアフリー」をなせるかを考えた。

保育環境のバリアフリー
【オープン教室方式】



壁をなくし、廊下・テラスを越え、園庭・森までが保育室と考え保育室をオープン教室とした。保育時間（認定号数）や異年齢、さらに特別な支援が必要な園児、それぞれ保育における意識の違いの「壁」を取り除きコミュニケーションのバリアフリー化を図る。



もとより、行っていた「コーナー保育」をより有効に実践できる方法として、オープン教室方式は最適であった。空間を物理的に仕切ることなく、保育・教育の中でエリア（コーナー）を認識させ、ルールを身に付ける。園児と一番身近に接する職員の判断により、保育室の形態を変えていく。4月の保育初期にはじまり、修了式までの間にさまざまなコーナーが作られる。

【特別支援教室】



各階に2ヶ所づつ設け、さまざまな場面にに対応できる様にした。また、各室テーマを決めて「行きやすい」空間造りを意識した。

オープン教室によって、集団活動のインセンティブは大きく広げることができた。個別な対応や小さい集団での保育、また特別な支援が必要となる場合に対応できるよう特別支援教室も設けた。障がい児保育も含めすべての園児に対応できる事ではじめて「オープン教室」が活かせることができる。

【森を残す】



園の特色である「森」「竹林」は園創設時より、共に育んできたものである。子どもだけでなくお父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんも遊んだ記憶が残る、正に紡いできた「森」である。子ども達にもこの森で遊んだ思い出を残してあげたい…園長の思いのもと、建替え計画にあたっては、森と竹林を残す計画とした。



木を利用したアスレチック遊具



森・竹林は冒険にうってつけ 葉っぱ一枚、小石一個が遊具となる

大きな木を利用した 巨大ブランコ

自然が与えてくれる教材は、絶好の コミュニケーションツール

園庭や森で自由活動している園児たちは、セクションの違いによってグルーピングや、活動内容を変えてはいない。もともと「壁」の概念はもっていないのではないだろうか。もとよりある絶好なバリアフリーな環境を残し、建物へ取り込むことができた。幼児教育において、職員の負担と創意工夫が要求される「オープン教室方式」であるが「壁」を取り除くことで園児の意識を広げる事は「認定こども園」の新しい形となり得るのではないか。